

今週（9月12日から9月16日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積み期間が切り替わる週となり、無担保コールO/N物は12～15日と16日でレート水準に差が見られた。積み期間終盤となる12～15日は、着地に向けた調整から、個々の積みの進捗に応じて調達姿勢に差が見られたものの、加重平均レートは概ね▲0.03%台前半で推移した。新しい積み期となった16日は、▲0.05%台前半と低下した。新型コロナオペの大半が期落ちを迎えることもあり、調達余力が今年前半に比べて低下していることから、ビッドサイドに慎重な姿勢が見られた。

ターム物は新積み期間スタートのショートターム物で▲0.05%前後の出合いが見られた。日銀当座預金残高は、源泉税揚げや各種金融調節等を受け504～508兆円台で推移した。

世界的に金利が上昇する中、先週に引き続き、長期金利は0.25%近辺で推移した。12日はカレント3銘柄が対象となる指値オペに対し、1,845億円の応札が見られた。14日はカレント3銘柄が対象となる指値オペに対し、1,598億円の応札が見られた。15日はカレント3銘柄が対象となる指値オペに対し、1,869億円の応札が見られた。16日は、カレント3銘柄が対象となる指値オペに対し、4,458億円の応札が見られた。

また、14日には日銀ネットにおける一部機能の不具合により、一部の決済に遅延等が生じた。それに関連してか、14日は国債補完供給オペが3回実施された。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、概ね▲0.095～▲0.080%程度の水準で推移した。新積み期間に入ってから、ややレートが低下した。

SC個別銘柄では、5年140～153、10年352～367、20年170～181、30年65～75、40年10～15などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、年末越えに対する需要は依然として強いものの、足元の需給が落ち着いていることもあって、先週と比較して6M～1Y物はやや軟調な展開となった。

15日に実施された1Y物入札は、WIと比較してやや強めの結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは堅調に推移した。16日に実施された3M物入札は無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットではしっかりと推移した。

13日に実施された短国買入オペは前回と同額の1,000億円でオファーされ、やや弱めの結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、週間の発行総額1兆1,200億円程度に対して償還総額が9,800億円程度と、小幅ながら発行超のマーケットとなった。大型発行は期内物を中心として、電気機器や小売、電気、ゴム製品等の複数業態から相次いで実施された。市場残高は引き続き28兆円台を維持し高水準での推移が続いている。

発行レートは横ばい圏で推移し、0%から若干のプラス金利での決着が中心となったが、大型案件では一部バラつきも見られた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
9/12 (月)	28,542.11	0.245	142.80	△ 0.032	△ 0.085	5,087,900
9/13 (火)	28,614.63	0.240	142.58	△ 0.033	△ 0.089	5,074,600
9/14 (水)	27,818.62	0.250	144.45	△ 0.033	△ 0.091	5,048,800
9/15 (木)	27,875.91	0.250	143.25	△ 0.032	△ 0.098	5,060,100
9/16 (金)	27,567.65	0.250	143.02	△ 0.053	△ 0.092	5,048,000

来週（9月19日から9月23日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
9/19 (月)	敬老の日				London休日(Funeral of Queen Elizabeth II)
9/20 (火)	8月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 4-6月期の資金循環統計速報(日銀 8:50)				米FOMC(1日目) 8月の米住宅着工件数
9/21 (水)	日銀政策委・金融政策決定会合(1日目 14:00~)	TB3M 56,000億円 9/26発行	流動性供給 5,000億円 9/22発行		米FOMC(2日目) FRB 米経済見通し発表 8月の米中古住宅販売
9/22 (木)	日銀政策委・金融政策決定会合(2日目 9:00~) 日銀総裁定例会見(15:30)				英中銀MPC結果発表(9/15の延期分)
9/23 (金)	秋分の日				

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
9/19 (月)	敬老の日								
9/20 (火)	▲ 200	88,500	88,300	国債買入 国債補完 CP買入 社債買入	5,100 ▲ 500 ▲ 300	4,400	8,700	97,000	国債の大量償還・利払い TB3M発行▲56000償還55000 TB1Y発行▲35000償還33500 5Y償還15500 10Y償還59600 20Y償還6500 エネルギー対策借入▲5500期日6000
9/21 (水)	1,000	▲ 18,000	▲ 17,000				0	▲ 17,000	
9/22 (木)	2,000	▲ 5,100	▲ 3,100	社債買入		800	800	▲ 2,300	流動性供給▲5000 食料安定供給借入▲100
9/23 (金)	秋分の日								
週間合計	2,800	65,400	68,200	—	4,300	5,200	9,500	77,700	

9/20は日銀予想、9/21以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、FOMCや金融政策決定会合等の日程が重なってはいるものの、積み期序盤ということもあり、レートに大きな変化は無いと見られる。全般的には低めの地合いで推移することが予想される。資金需給は、20日に国債の大量償還利払いが予定されている。レボ市場は、GC T/Nは、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、GC T/N物のレートは▲0.095～▲0.075%程度の水準で推移することが見込まれる。短国市場は、21日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。CP市場は、営業日数が少なく、特段のイベントは無い。期末に向けてどの程度期越え物案件が膨らむかが注目される。

主要なイベントは、国内では20日に8月の全国CPI、21～22日に金融政策決定会合、海外では20～21日にFOMC等が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入